



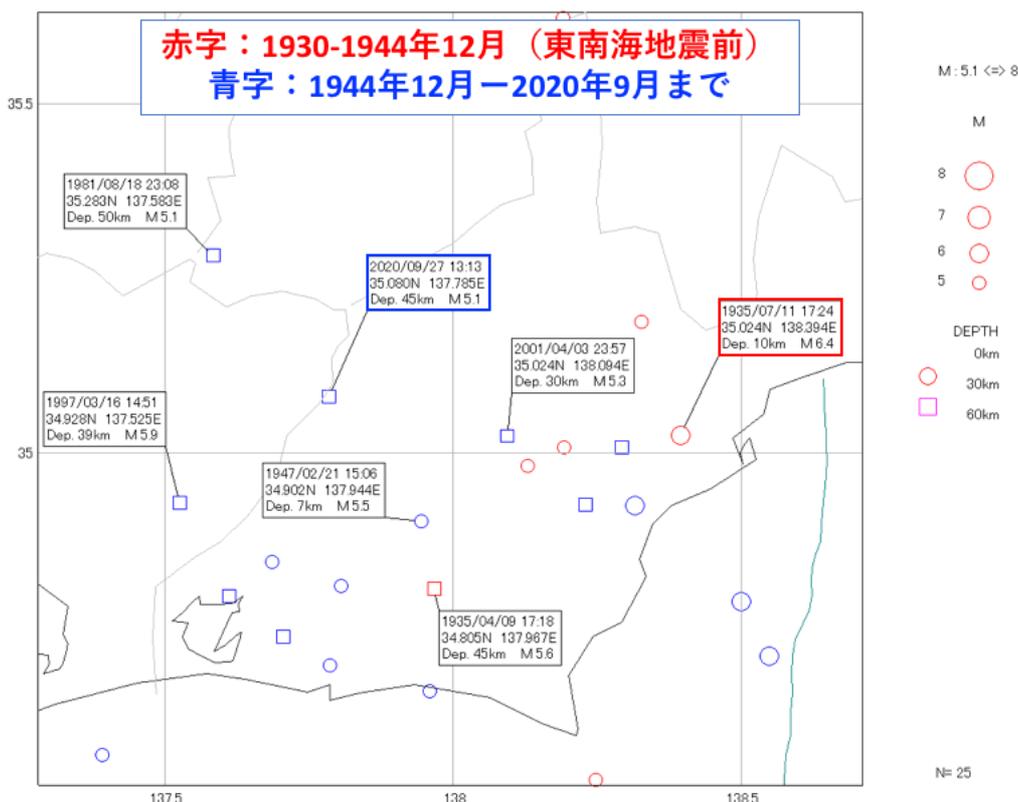
9月27日に静岡県で発生した地震

9月27日に静岡県北部およびその周辺で震度4を記録する地震が発生しました(図中の青枠)。地震の深さは45kmと推定されており、沈み込むフィリピン海プレートの上面で発生したと考えられています。東北日本の沈み込みに伴う地震では通常は逆断層型であるのに対し、この地震は横ずれ型の地震でした。地震発生直後の速報値ではマグニチュード5.3と報道されましたが、その後の解析でマグニチュードは5.1に修正されました。実はこの近辺では気象庁の記録に残る限り、この規模の地震は発生しておらず極めて珍しい地震と言う事ができると思います。

この地震がすぐに次の南海トラフの巨大地震の引き金となる事は考えにくいですが、一般に南海トラフ沿いの巨大地震の10年—20年ほど前から、内陸でそこそこの規模の地震が発生するなど、地震活動度が上昇するという事が知られています。

実際、昭和東南海地震の9年前の1935年には当時の静岡市・清水市で死者9名、前回家屋360戸あまりの被害を出した静岡地震(マグニチュード6.4, 図中の赤枠で囲った地震)が発生しており、この地震が中期的な意味の前兆であったと考えられています。

今後、静岡県や愛知県などでの内陸地震活動がどのように推移していくかを我々は注意深く監視していく必要があると考えています。



またこの地震に関連して、動物が地震時に騒いだとの報道がありましたが、これはP波の到着を動物が察知して、S波の到着前に騒いだものと推察されます。

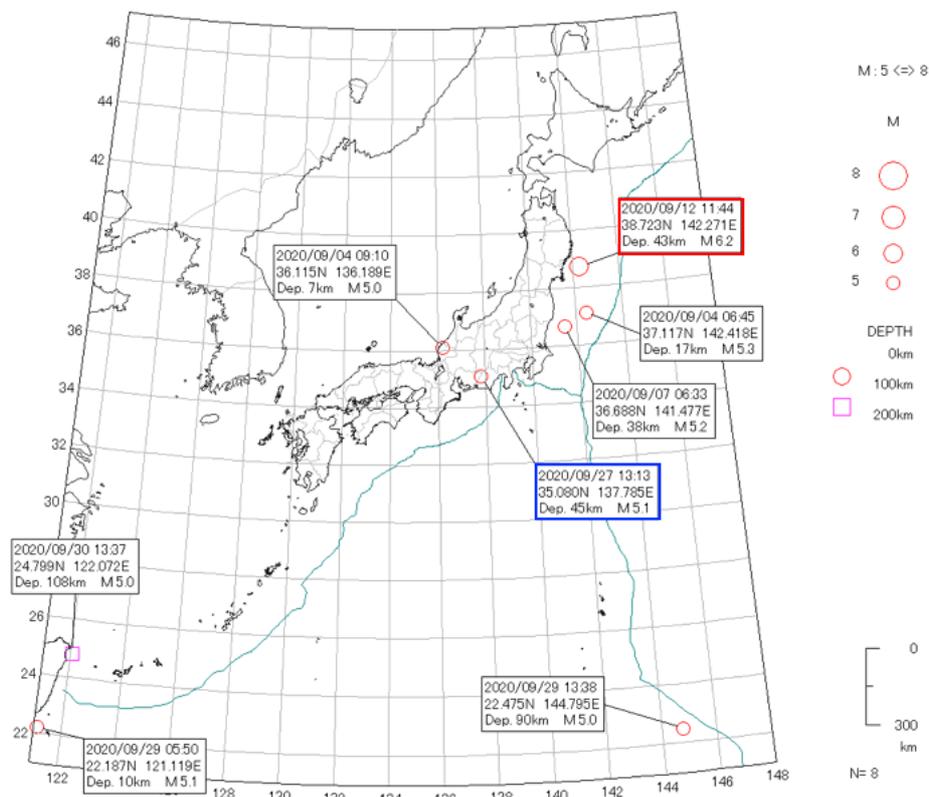


2020年9月の地震活動概観

2020年9月には、日本列島およびその周辺でマグニチュード5を超える地震は8個発生しました。ここ数ヶ月、かなり地震活動が低調なようです。実際7月が4個、8月は3個の発生でした。

9月で最大の地震は岩手県沖で発生したマグニチュード6.2の地震でこれは東日本大震災の余震(赤枠)です。また27日は前述の静岡北部でマグニチュード5.1の地震が発生しました(青枠)。

2020/9/1 0:0 — 2020/9/30 23:59



横浜でも異臭騒ぎ

10月3日夕刻、横浜市の中区、神奈川区、港北区の住人から「ガス臭い」や「焦げ臭い」といった通報が数十件、相次いだということです。

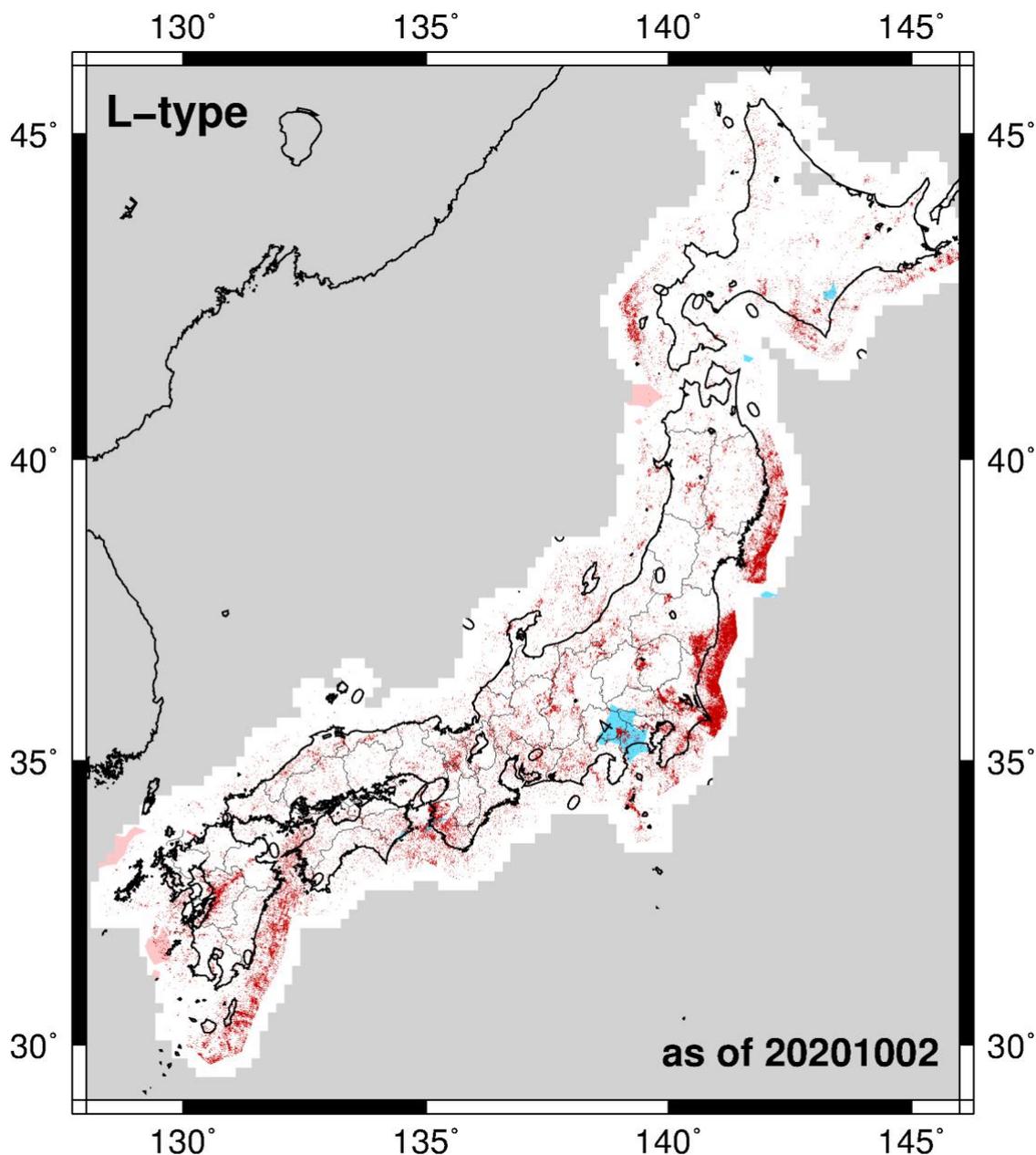
また横須賀市では、1日の夕刻に横須賀市の東部から「薬品のような臭いがする」等の通報が相次いだとの事でした。1日の異臭騒ぎは一部横浜市南部でも報告されていたようです。

三浦半島では6月以降、毎月のように原因不明の異臭騒ぎが続いており(6月4日、7月17日、8月21日、9月19日)、県などが関係機関で対応して調査する事を決定しましたが、残念ながらまだ異臭の原因物質の採取には至っていません。窒素酸化物や硫黄酸化物などは道路沿いで環境モニタリングの一貫として行政機関が監視していますが、今回のように原因物質が不明な突発的な異臭に対しては対応するのは困難なため、今は人海戦術で異臭の通報後に消防署職員等が現地へ急行するという体制をとっています。これだけ原因不明の異臭騒ぎが続くというのは明らかに異常です。早期の原因究明のため、ある程度市民ボランティアによるサンプルの採集というような事も予算が許せば必要な時期に来ているのではと推察しています。



日本列島陸域の地下天気図®

8月24日のニュースレターに引き続き、日本列島の陸域に特化した地下天気図解析です。今週は10月2日時点のLタイプおよびMタイプの地下天気図をお示しします。



この一ヶ月少しの間に、関東地方南部における地震活動が変化しているようです。9月21日のニュースレターで報告しました関東地方に特化した地下天気図解析でも、神奈川県を中心とした地域にLタイプでもMタイプでも静穏化の異常が出現した事を報告させて頂きましたが、今回の内陸地震に特化した解析でもLタイプ、Mタイプに共通の地震活動静穏化異常が神奈川県を中心とした地域に出現している事が判明しました。

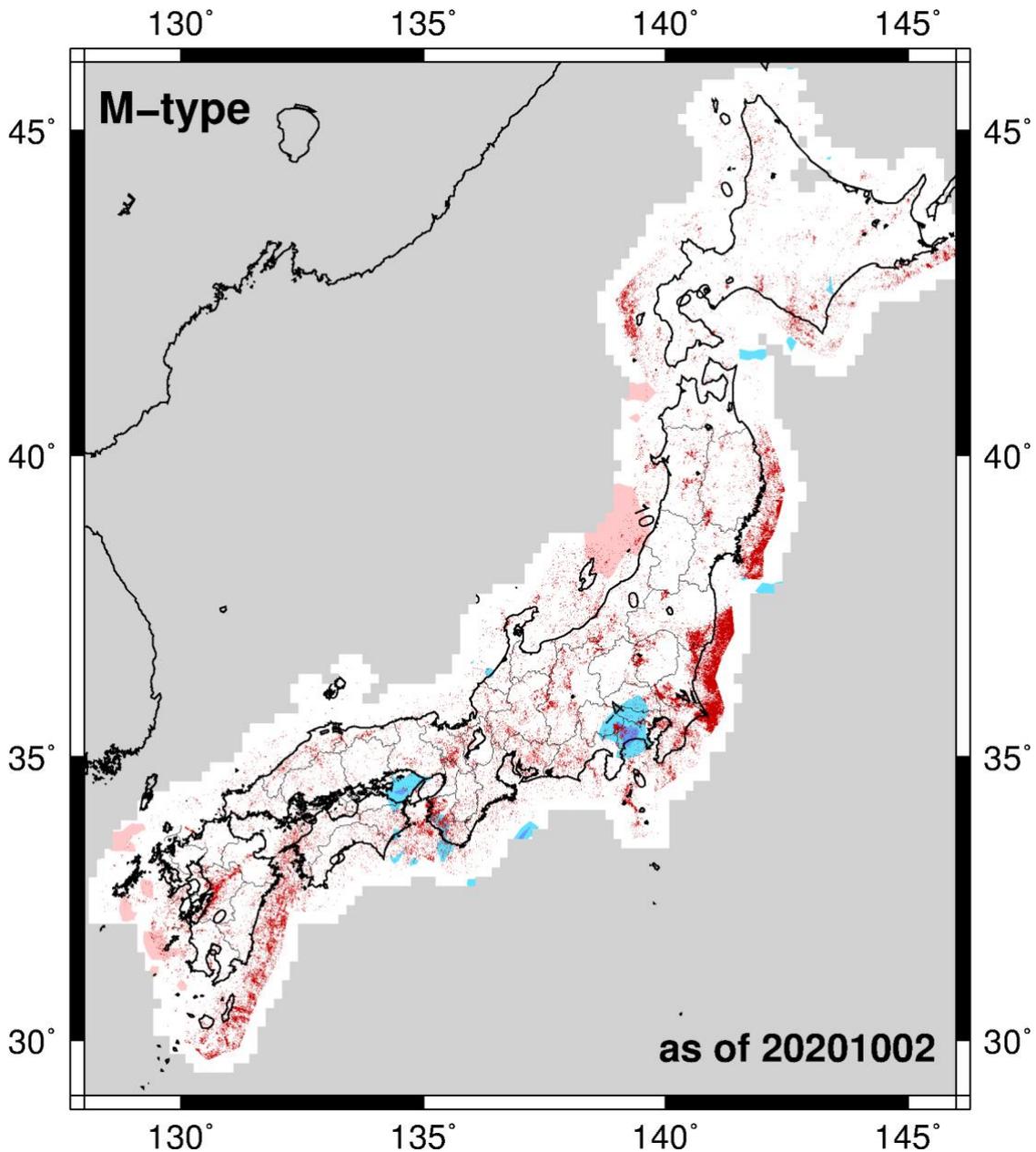
9月21日の解析は深さ200kmまでの地震活動を考慮しています。それに対し、今週の解析では、より小さい地震までを解析に用い、さらに深さ60kmまでに発生した地震のみを解析に用いています。

異なったパラメータで解析してもほぼ同一地域に異常が出現しているという事はこの静穏化異常の確



度が高いという事を意味しています。

次にお示しする地下天気図はMタイプのものです。



この異常については、DuMAとして重大な関心を払っていきたいと考えております。

また次週はダッシュボードの更新を行いたいと考えております。